

## 【中学校第3学年の実践】

## 1 主題名

平等な社会の形成に向けて【C 社会参画、公共の精神】

## 2 教材

すべての人に読書の喜びを 本間 一夫（北海道版道徳教材（中学校用））

## 3 主題設定の理由【指導観】

## (1) ねらいとする道徳的価値について【価値観】

社会参画とは、共同生活を営む人々の集団である社会の一員として、その社会における様々な計画に積極的に関わろうとすることである。このことから、社会の形成を人任せにするのではなく、主体的に参画し、社会的な役割と責任を果たしていこうとする心情や態度につながる指導が大切である。

第3学年の指導に当たっては、進んで社会と関わり積極的な生き方を模索するとともに、自分も社会の一員である認識のもと、主体的に社会に参画し、その発展に寄与するという実践意欲や態度を育てていきたい。

## (2) 生徒の実態【生徒観】

よりよい社会の実現に向け、社会の形成に主体的に参画し、社会の発展に寄与していく実践意欲や態度を育てるために、道徳の時間（H31からは道徳科）以外では次のような指導を行っている。

## ①社会科公民的分野「私たちがつくるこれからの社会」

社会の一員として主体的に参画していく実践意欲や態度を育てるために、公民の授業で、「グローバル化」「情報化」「少子高齢化」社会において、自分たちがどのようなことができるかを考えさせる指導を行っている。学習を通して、生徒は世の中の動きを知り、現在と未来をどのように生きていったらよいのかを考えることができている。また、教科書の内容だけでなく、自分たちの身の回りの問題等について取り上げることで、地域の未来について深く考察できている。今後は、地域や自分が所属する集団に主体的に関わり、その発展に寄与するために、自分は何ができるかを考えさせていきたい。

## ②特別活動「生徒会活動（募金活動）」

社会を構成する多くの人々と助け合い、励まし合いながら社会連帯を深めようとする実践意欲と態度を育てるために、募金活動に取り組むなど、生徒会が主体となった社会貢献活動についての指導を行っている。活動を通して、共に助け合い励まし合うという社会連帯の大切さについて理解を深めることができた。また、地域の方が多く訪れる場所においても募金活動をすることから、生徒は、人とのつながりを深め、社会と自分たちのつながりを実感することができた。この活動を通して、自分たちも地域の一員として、今後さらにできることを考えさせていきたい。

## (3) 教材について【教材観】

社会参画の自覚を高め、よりよい社会の実現に寄与しようとする実践意欲と態度を育てるために、点字図書館を設立・維持した一夫の思いや行動について話し合い、多面的・多角的に考えることを通して、価値理解・人間理解・他者理解を深めさせる。そのために一つの発問では、一夫が平等な社会の形成を目指して点字図書館を設立した思いについて考え、価値理解を深めさせる。また、中心的な発問では、一夫が幾多の困難を乗り越えて点字図書館を続けようとした思いについて考え、人間理解・他者理解を深めることができるようにする。

#### 4 ねらい

本間一夫の生き方に触れることを通して、社会参画の意識を高め、よりよい社会の実現に寄与しようとする実践意欲と態度を育てる。

#### 5 学習指導過程

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・子どもの反応	・指導上の留意点 ■評価	「考え、議論する道徳」 に向けた工夫
導 入	● 社会参画に関するアンケート結果から、自分たちの住む地域の未来像について考える。 ・地域が発展することの大切さは分かっていたけど、具体的に何が必要かを考えたことはなかった。	・ねらいとする道徳的価値への方向付けとして、生徒自身の社会参画に対する考えを想起する場を設ける。	<b>【工夫①】</b> ・地域に対する自分の考えを自覚させるとともに、実現に当たっての課題点等について気付かせるために、事前にアンケートを実施し、その結果を活用する。
展 開	● 教材「すべての人に読書の喜びを」を読み、話し合う。 ○ 一夫は、どうして「自分の手で日本に大きな点字図書館を開こう」と決意したのでしょうか。 ・同じ境遇の人に読書の楽しさを伝えたかったから。 ・目の見えない人が楽しめるよう、たくさんの点字図書をそろえたかったから。 ・社会のために何かをすることが、自分の新しい道を開くことにもつながると思ったから。 ○ 「図書館全焼、一物も残さず。」という電報が届いたとき、一夫はどんな思いをもったのだろうか。 ・ここまでやってきたのにこれからどうしよう。つらい。 ・待っていてくれる人がいるのに…。 ・自分の夢の実現はここまでか…。 ◎ 一夫がどんな状況下でも志を貫いたのはなぜだろうか。 ・点字図書を待っている人がいる。 ・人の役に立ちたい。 ・たくさんの人に励まされた。	・一夫の決意がどう社会に影響するかを考えさせ、社会参画に対する考えを深められるよう働きかける。  ・一夫の気持ちに迫り、苦しさの中でも活動を続けようとする、中心的な発問につなげる。  ・幾多の困難を乗り越えて点字図書館を続けようとした一夫の思いについて考え、人間理解・他者理解を深めることができるようにする。	<b>【工夫②】</b> ・多様な考え方に触れ、自己の考えを深めさせるために、交流を活性化させる補助発問や問い返しを行うとともに、よいと思った他者の考えを記述させる。  <b>【工夫③】</b> ・社会参画や公共の精神について、多面的・多角的に考えさせるために、生徒から出された考えを「自分の視点」と「他者への視点」に整理して板書する。
	● 自己を見つめる。 ○ 町で一夫のように活動した（している）人はいるだろうか。 ・地域おこし協力隊の人…お祭りなどで活躍している。 ・町長…よりよい町づくりについて考え、実行している。 ・警察、消防…地域の安全・安心を守っている。 ○ よりよい社会のために、自分はこれからどんなことができるだろう。 ・周りの意見を尊重し、助け合う。 ・積極的にボランティアや地域行事に参加する。 ・みんなのために何ができるかを考え、実行する。	・自分の身の回りに目を向け、自分の住む地域や生活の現状把握をすることで、自分との関わりについて考えることができるようにする。	<b>【工夫④】</b> ・これからの自分のできること、必要なことを考え、自己理解を深めさせるために、これからの自分の生き方について、ワークシートにまとめさせる。
	● 教師の話を聞く。 ※NPO団体など、地域の発展に尽くしている人々の取組や思いについて話す。 ● 本時の授業を振り返る。 ※本時の学習状況について、生徒に自己評価等をさせる。	・社会参画の必要性や取組の方法などを具体的にイメージさせ、実践意欲と態度が育まれるようにする。	

6 板書

第15回道徳授業

すべての人に読書の喜びを

自分の視点  
 ・本が好き。  
 ・本を属したい。  
 ・自分が励まされた。  
 ・自分も本も必要とされている。  
 ・待っていてくれる。

他者の視点  
 ・本を読んでもほしい。  
 ・本のおもしろさを知ってほしい。  
 ・読みたいと思っている人へいる。  
 ・豊富な知識をもてほしい。  
 ・本が読める喜びを伝えてほしい。

志を貫く  
 すべての人に  
 読書の喜びを

夢や物  
 全て燃えて辛い。  
 夢を諦めかけた。  
 全て消えてしまった。  
 上りようと思っただのに...

本が好き。  
 本が大好き。  
 もっと本を読みたい。

自分の手で、日本に  
 大きな点字図書館を  
 開こう。

図書館全廃  
 一物も残さず。

町のために  
 消防署  
 警察  
 工事の人  
 町民の人  
 町長  
 役場の人

安全安心  
 PR  
 町民の声

7 ノート・ワークシート

すべての人に読書の喜びを 名前 \_\_\_\_\_

第(15)回道徳授業  
 友だちのどんな考えに心が動きましたか?同じ考えや自分とは異なるとき、下の吹き出しにつぶやいてみよう。

今日の授業であなは何を考え、何を感じましたか。  
 (今までの自分は?これからの自分は?友だちの意見を聞いてどう思った?)  
あらためて、●●の人たちは、●●を知らなくても知ってもらうために、本節にあった行事や、町民同士の触れ合いをすることに力をいれているんだなって思った。小さい町で、かき行事とかなくてつまんないって思っていたけど、今日の授業で、深く考えみると、感謝する気持ちが湧いてきたなって思った。

【授業の評価】(5よく当てはまる 4当てはまる 3あまり当てはまらない 2ほとんど当てはまらない 1当てはまらない)  
 ○以前より自分の考えがもてるようになりましたか。 ( 5 ) 4 3 2 1 )  
 ○他の人の考えを聞いたり、読んだりして、参考にしましたか。 ( 5 ) 4 3 2 1 )  
 ○以前より、自分の考えを発表できるようになりましたか。 ( 5 ) 4 3 2 1 )  
 ○道徳の時間の内容を自分との関わりで考えることができましたか。 ( 5 ) 4 3 2 1 )

一夫がどんな状況下でも志を貫いたのは...?  
 ・自分と同じ病気になっっている人が、点字図書館に行きたら思っているかもしれないから。  
 ・待っていてくれる人がいるから。  
 戦争中でも貸し出しを希望する人がたくさんいるから、すごく必要とされていると分かったから。

【授業実践を振り返って】

社会の一員として主体的に社会に参画し、よりよい社会の実現に寄与することについて自分との関わりで多面的・多角的に考えることができるよう、中心的な発問を吟味し、「一夫がどんな状況下でも志を貫いたのはなぜだろう。」と問いかけました。

生徒からは、

- ・みんな生きるだけで精一杯なのに本を送ってくれる。(思いやり、感謝)
- ・目の見えない人が見える人と同じように暮らしてほしい。(公平)
- ・点字図書館の仕事を続けることで、よりよい社会づくりにつながる。(勤労)
- ・困難があっても、自分の意志を貫き点字図書館を続けたい。(強い意志)

などの発言が見られ、「思いやり、感謝」「公平」「勤労」「強い意志」等の道徳的価値との関連を図りながら、自分との関わりで多面的・多角的に考え、「社会参画」について考えを深めることができました。